

コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

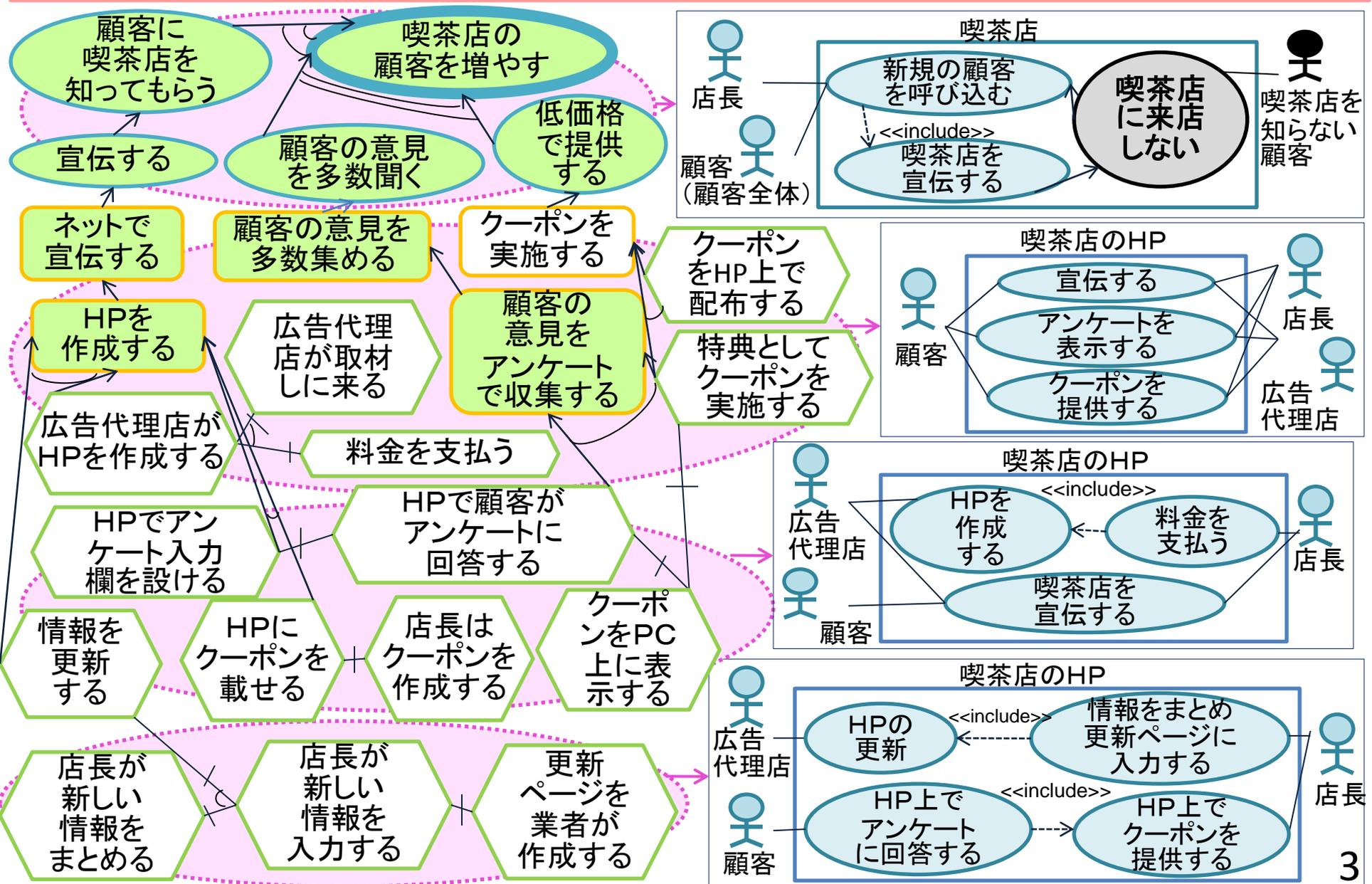
指導教員 青山 幹雄

シナリオ

- ミスユースケース図の問題点
- 提案プロセス
- 今後の課題

ゴール整合プロセス:(5)ゴールの詳細化とコンテキストの関連付け

(5) ゴール木でゴールを詳細化・ユースケース図とミスユースケース図でゴールを整合



ミスユースケース図の問題点

● 顧客を増やせない原因

(喫茶店を宣伝することで効果が期待される範囲で考えられるもの)

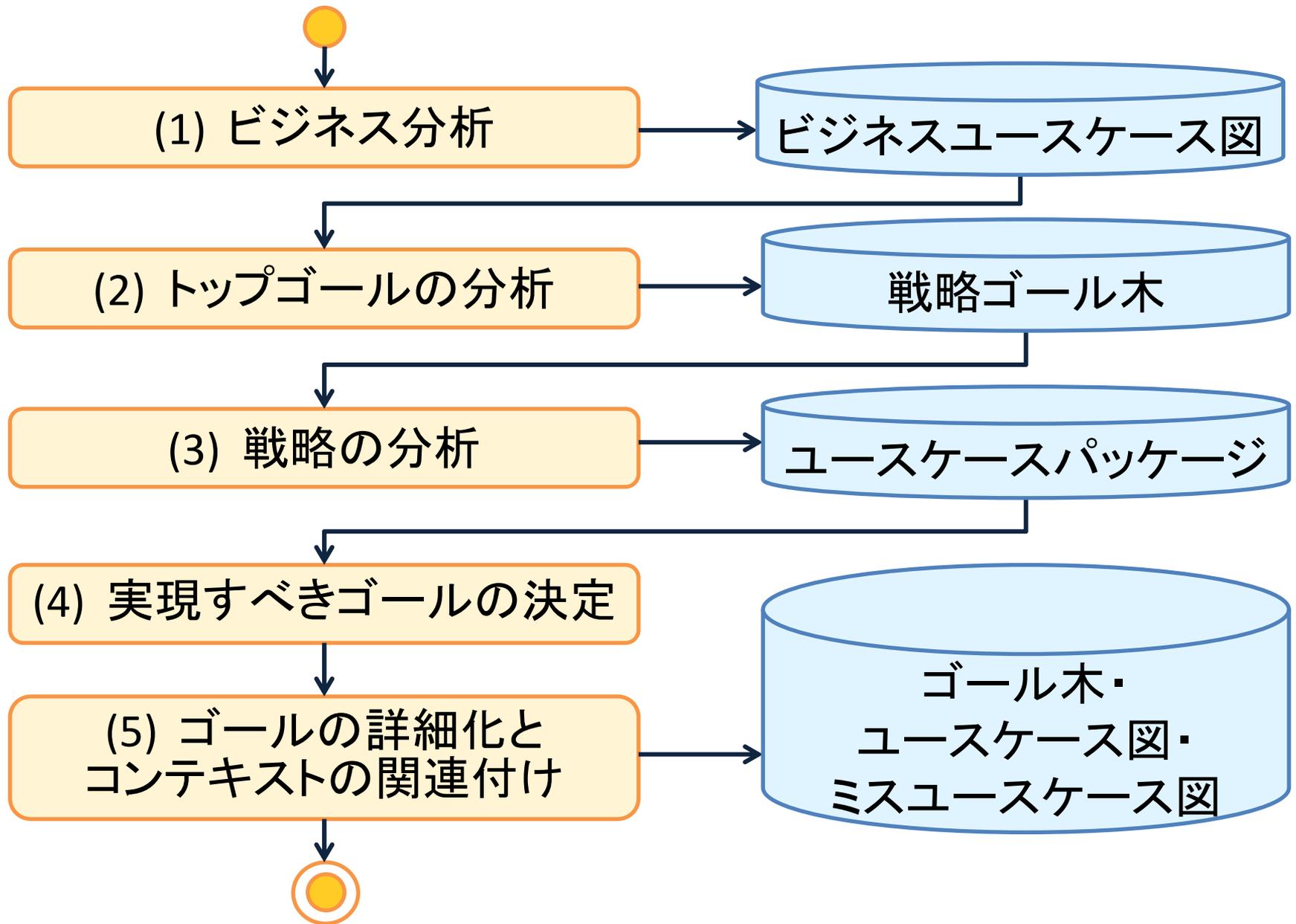
- 喫茶店の存在自体を知らない顧客がいる
- 喫茶店の魅力を知らない人がある
- 料金やメニューや場所など喫茶店の情報を知らない顧客がいる
- 雰囲気を知りたい顧客がいる
- みんなの評価を知りたい顧客がいる

✓ HP(システム)を作成する上での詳細的な仕様や目的となる

目的を定める必要がある

各原因の関係(包含関係など)や顧客を増やすゴールへの
影響度または**優先度**を知る必要がある

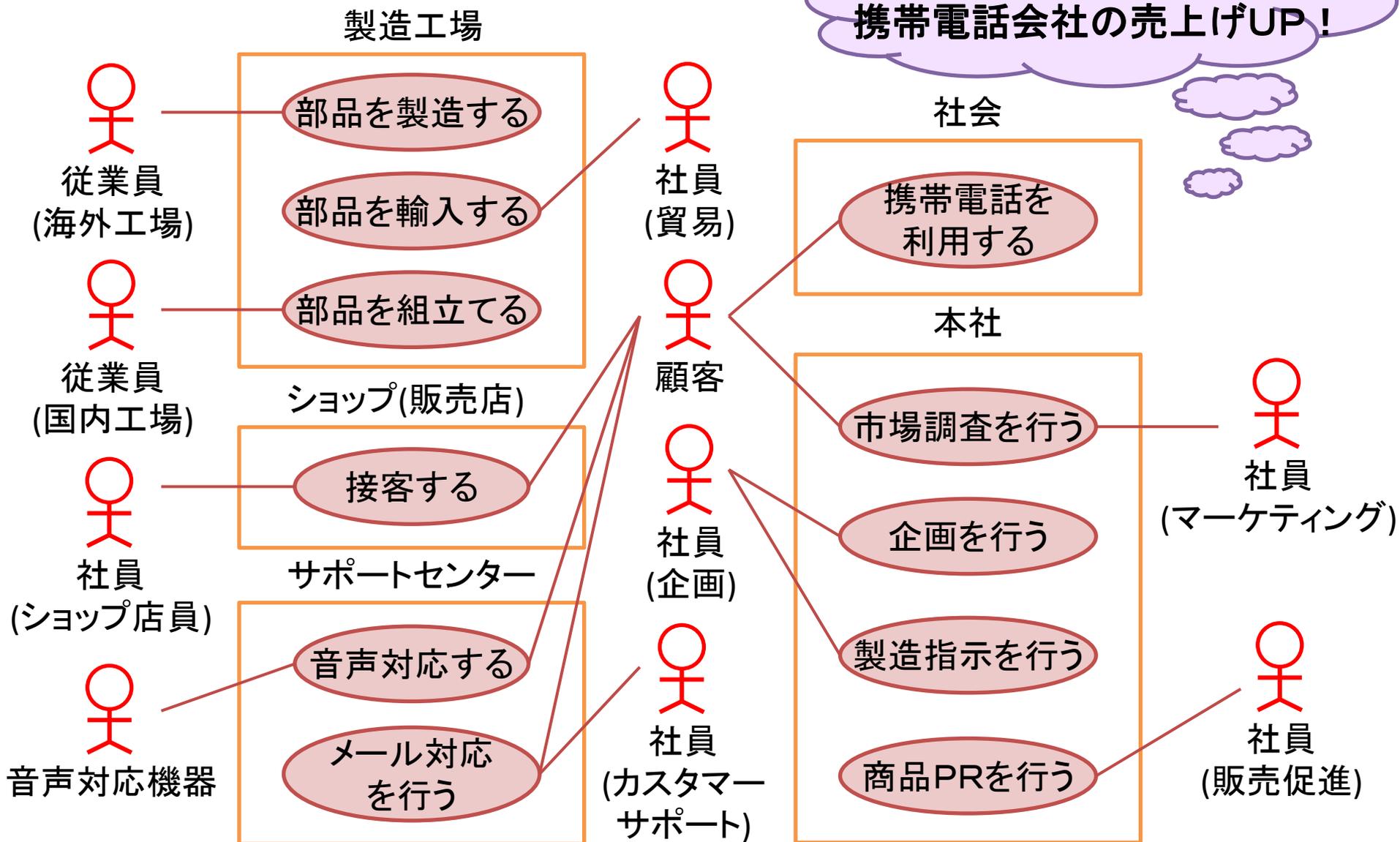
ゴール整合方法:整合プロセス



(1) ビジネス分析

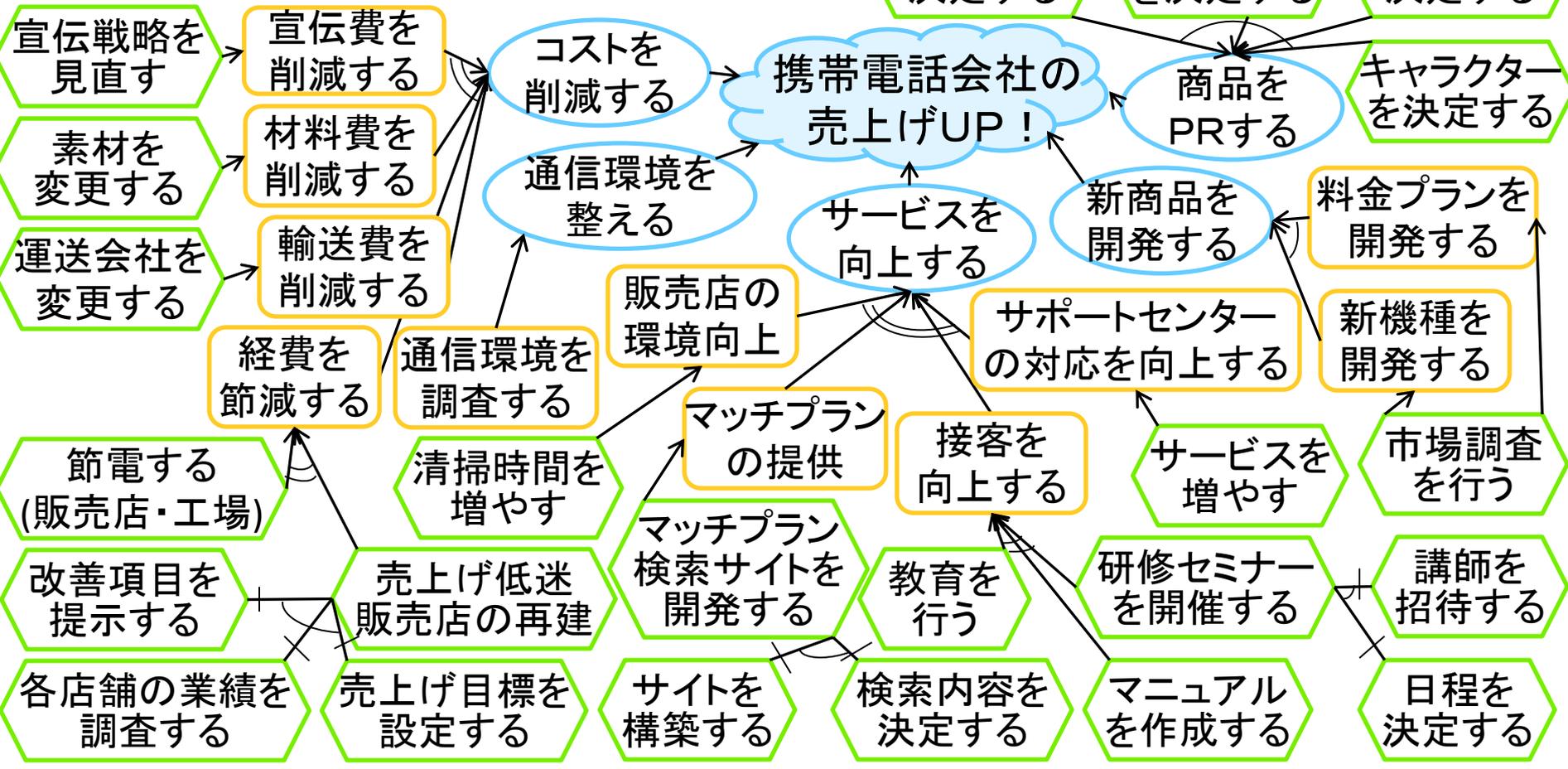
- ビジネスユースケース図により事業を把握

トップゴール:
携帯電話会社の売上げUP!

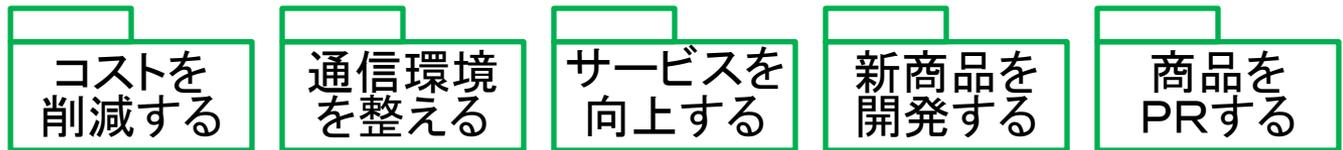


(2) トップゴールの分析

● トップゴールを分析し戦略ゴール木を作成



● ユースケースパッケージの戦略への適応



(3) 戦略の分析

- ユースケースパッケージにより戦略の抽出

コストを削減する

宣伝費の削減

材料費の削減

輸送費の削減

経費の節減

サービスを向上する

販売店の環境向上

マッチプランの提供

マッチプラン検索サイトの開発

接客の向上

サポートセンターの対応向上

今後の課題：
戦略の抽出から戦略の決定までのプロセスの詳細化

戦略間の依存関係が示されていない

通信環境を整える

通信環境の調査

新商品を開発する

料金プランの開発

新機種の開発

商品をPRする

今後の課題：

戦略間の依存関係の表現

今後の課題

- ゴール整合方法の具体化

- (3)戦略の分析

- 戦略の分析を詳細化

- 戦略パッケージの決定方法と戦略パッケージの依存関係

- (5)ゴールの詳細化とコンテキストの関連付け

- ミスユースケースの決定方法

コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

—END—

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

指導教員 青山 幹雄